



英国総選挙2010:保守・自民の連立政権誕生

保守・自民の連立政権が誕生した。英国では65年ぶりの連立政権誕生ということになる。

以下に少し経緯を遡ると、10日午後にブラウンとクレッグの会談、夜に労働・自民代表チームの話し合いがもたれた時点では、モメンタムは労働・自民の連立の選択肢の方に動いたかと思われた。これに対し、ブラウン-クレッグ会談のニュースが流れて程なく保守党側からAV(ランキング投票制度)を含む選挙制度改革の国民投票実施の最終オファーが出された(保守党がここまで譲歩するとは思われていなかった)。10日夜の自民党議員総会の場では、前党首(アッシュダウン、ケネディー、キャンベル)は労働党との連立を支持。これに対し、クレッグ、ケーブルが、保守党が選挙制度改革をはじめ政策面でかなりの譲歩を示しているのに対し、労働党からは殆ど歩み寄りが見られず「本気」とは思えず、保守党との連立政権に参加して安定政権樹立の一端を担うのが唯一の選択肢であると、党員を説得したと伝えられている。

11日午前中は、労働党の外野(D.ブランケット、保健大臣バーナム、法務大臣J.ストロー等)から、「レインボー連合」は実現見通しゼロであり、労働党は負けを認めて野に下り体制を整えた方が賢明との発言が相次いだ。午後に入って労働・自民の交渉停止が伝えられ、昼過ぎから保守・自民が最終交渉に入った。緩やかな協力関係(Confidence & supply)に留まらず、本格的連立政権を目指し、自民からも内閣に参加とのニュースが徐々に流れしてきた。

交渉成立の見通しが伝えられる中、午後5時に首相官邸前でブラウンが首相・党首辞任を発表。そのままバッキンガム宮殿で女王へ辞任を伝え、野党党首キャメロンを次期首相に推した。その後キャメロンがバッキンガム宮殿へ招聘され、首相に就任した。(ちなみにキャメロンはエリザベス女王にとって12人目の首相。1人目はチャーチル！)

11日夜に入って交渉成立が伝えられ、それから深夜にかけて開かれた保守・自民各々の党員総会の場で承認が得られた。自民は週末に臨時党大会の投票を通す必要があるが、もはやそこで否決されることはないと見られている。

明けて12日、順次閣僚リストが発表された。主な陣容は以下の通り。首相:キャメロン、副首相:クレッグ、財相:オズボーン、外相:ヘイグ、ビジネス相:ケーブル、内務相:テレーザ・メイ(女性が少ないとの批判を受けて重要ポストに置いたと解釈されている)、法務相:クラーク、

等。自民党からは閣僚級5人と、政務次官(junior ministers)レベルで20人が参加とのこと。また、午後2時過ぎに首相・副首相の共同記者会見が行われ、新政権の施政方針の大きな柱を(1)安定経済、(2)リベラリズム(キャメロンの「小さな政府・大きな社会」の枠組み)と説明。全く新しいタイプの政府(new kind of government)で、安定して長続きする政府(government which will last)であると強調した。

別途、連立合意文書も発表されている。50日以内に緊急予算策定が予定されており、財政再建が最優先課題。赤字削減には保守党案どおりFY2010から着手する。その代わり税制に関してはかなり自民党案が取り入れられた。この合意文書が25日のクイーンズ・スピーチの基礎となる。また、安定政権を保証するために、下院の5年任期を設定し(5-year fixed term parliament)、首相の解散権をなくすことに両者が合意し、法制化のプロセスに入る。

英国では過去に殆ど例を見ない連立政権の誕生に対する一般の見方は、期待半分・不安半分といったところ。党内の根強い反撥を押さえて「国益重視」で党内のコンセンサスをまとめあげた両党首のリーダーシップは評価されているが、そもそもの政治信条は水と油のような両党で、いわば政略結婚(marriage of convenience)である。たとえば対EU政策で懸案が噴出した場合など、連立維持が可能なのかは「お手並み拝見(Let's see)との冷めた見方も多い。

一方の労働党は、副党首のハリエット・ハーマンが暫定党首となった。総選挙の敗北も「当初恐れていたよりはまし」な結果だったので、野に下ることにあまり悲壮感は感じられない。党首選スケジュールが決まるのは来週だが、選挙プロセスには3カ月程度要すると見られている。最有力候補と見られているのは、本日立候補を表明した前外相D.ミリバンド(ブレア派)。前教育大臣エド・ボールズ(ブラウン派)も立候補に意欲を見せている他、前環境大臣エド・ミリバンド(ブレア派・ブラウン派のつなぎ役)も考慮中と伝えられる。今回の選挙敗北で政権を担当した13年間を含むニューレーバー時代の終焉となり、今後党のあり方をめぐる議論が繰り上げられる見込みである。

井上 貴子(問合せ: tinoue@komatsuresearch.com)